

モードは語る

中野 香織

ブームの始まりは2019年5月の米メットガラだった。英ポップグループ「ワンダイレクション」のメンバー、ハリー・スタイルズが片耳に大きな真珠のイヤリングをつけて登場した。6月にフィレンツェでおこなわれたメンズファッションの見本市「ピッティ・イマージネ・ウオモ」では、真珠の片耳イヤリングの男性たちがランウェイを歩き、エンタメ界の有名人やモデルも続々とつけ始めた。

男に、真珠。新トレンドに商機を見た企業は、男性用の真珠アクセサリを作り始めた。年末から今年初めにかけて、イヤリングにネックレスと一気にバリエーションが拡大。日本を代表する真珠ブ

メンズも飾る真珠

ジェンダーからの解放

ランド、ミキモトもコム デ ギャルソンと協働し、2月14日に男性のための真珠ネックレスを発売した。ネクタイの上に装われる真珠は違和感がないどころか、レフ板効果で顔を明るく映えさせる。

実は男性の真珠のアクセサリはまったく新しい流行というわけでもない。16世紀の英国では国王ヘンリー8世が全身を真珠で飾り立て、宮廷人たちは片耳に真珠のイヤリングを飾った。冒険家のサー・ウォルター・ローリーも片耳に大きな真珠をつけて肖像画を描かせた。

この時代、養殖真珠は存在しないので、危険と隣り合わせで海から採られた天然真珠である。真珠は富の象徴であること



アコヤ真珠のネックレスを身につけた俳優の岩崎拓馬さん

もに、「すばらしき新世界」をめざす勇敢な人間であることの誇示でもあった。流行は17世紀まで続き、国王チャールズ1世は常に片耳真珠をつけていた。断頭台で処刑されるときまでもずっと。

現在の真珠のトレンドの背後にあるのは、ジェンダーフルイド（ジェンダーは流動する）という考え方の普及であろう。男性としてふるまうか、女性としてふるまうか、そのどちらでもない性としてふるまうかは時に応じて変わるという考え方が、モード界を超え広がっている。

ごく最近まで「女性の必需品」とされていた真珠をあっさりまとう男性を見ていると、そもそもジェンダーを問う発想そのものが古く見えてくる。「らしさ」や役割の固定観念から解放された21世紀のルネサンス・マンの美しさを、真珠の凜とした光が引き立てる。（服飾史家）